

希学園 第405回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第405回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年2月8日実施)	https://vimeo.com/1162802971/b4bdf90e06

1

役立
う
か
勉強

山
心
美術
たち
(記述題)

エ
↓
イ
↓
ウ
↓
オ
↓
ア
一人

ウ
ず
ぐ
さ

幸
活路
注目

2

黄色
本体
旅行

づ
ず
づ
(記述題)
う
ま
く

ア
余
て
イ
オ

A
ウ
B
ア
C
エ

娘
は
わ
何
の

1

じ
っ
く
り
と
自
分
と
向
き
合
っ
て
、
自
分
を
取
り
も
ど
す
た
め

2

学
校
で
習
っ
て
き
た
の
で
、
一
人
で
作
っ
て
み
よ
う
と
思
っ
た
か
ら

配点	
1 9・10 2 1・2	各2点×12=24点
1 5 2 3	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

① (ちいさな美術館の学芸員『忙しい人のための美術館の歩き方』より)

1 まず、この文章の出だしがほとんど美術館に行かない人によく美術館に行く人との対比になっていることをおさえよう。この問いではほとんど美術館に行かない人の考え方が聞かれているので、文章の中でほとんど美術館に行かない人がどのように考えているのか、または美術館によく行く人の考えとは対照的な考えがないかをさがしていく。すると――線⑨の前に「そうした役立つかどうかという価値観」が見つかるだろう。

2 ――線②の前に「そんな風に」とあるので、前の段落で筆者が何のために美術館に行っていたかを答えればよい。

3 ③は美術館好きが「だって(美術が)好きだから」と言うことが、登山家が「そこに③があるから」ということと同じであるということから「山」が答えとなる。⑥は「忙」の字がりっしんべんと「亡」という字を組み合わせていることから⑥にはりっしんべんの元の形である「心」があてはまる。

4 問1で確かめた対比を利用してよく美術館に行く人のことがどう書かれているかを指定の字数でさがしていこう。

5 「忙しければ忙しいほど、ふと美術館に行きたくなる」のがなぜかは、次の段落にくわしく書かれていた。

6 イの「努力だけでなく、才能が不可欠だから」を利用して、その結果が何かをさぐればエの「活躍できる人は：ほんの一握りです」がつながる。ウの「でも」はエの「ほんの一握りです」と「憧れる人はたくさんいます」を逆接の関係でつないでいるので、エ→イのまとまりの後にウが来る。ウの「アーティストを目指す人、アーティストに憧れる人」をさして才で「そうした人」とまとめているのでウの次が才となる。アの「そこで」は才の「美術館でクリエイティブなものに触れる、囲まれる」「至福のひととき」をさしており、最後はアでまちがいないといえる。

7 「千差万別」と同じ意味の言葉をさがしていくこともできるが、「美術館に行く理由」が「千差万別」であることから「美術館に行く理由」がいろいろだと書いてあるところをさがしていくことも、話題のまとまりで答えをさがすことができるので効率的である。

8 「距離を置いている」とは近づこうとしていない、つまり遠ざけておきたいということである。

9 「おとずれる」や「ほぐす」のような言葉が身についているかどうかは、ふだん文章を読んでいる中でどれだけ言葉に注意を向けられているかで変わってくる。意味があやふやな言葉を残さないように、気になる言葉は辞書で積極的に調べていこう。

10 a 「幸」は「災」など同じ「い」が送りがなの漢字とまちがえないようにしよう。b 「活路」は「路」の六画目と七画目を組みちがえないように気をつけよう。c 「注目」はつくりの「主」をきちんと五画で書こう。

② (津村記久子『台所の停戦』より) ※ 問題作成の都合上一部表現をあらためた箇所があります。

1 a 「黄色」は「黄」の五画目から九画目を「田」のような形にしてはいけない。b 「本体」はうっかり「木」や「休」としないように気をつけよう。c 「旅行」は旅のつくりの画数をまちがえたり、「遊」のしんによるの中のような形にしたりしないように注意しよう。

2 「ず」か「づ」かの書き分けは、1：原則は「ず」、2：もともと「づ」の言葉が他の言葉と組み合わせられた場合は「づ」「おり」＋「つめ」で「おりづめ」、3：「づ」が続く場合は「づ」「(づづく)」の基本をおさえて、例外を覚えていこう。

3 指定の形に注意しよう。ほうれん草とベーコンの炒め物の材料を買ってきてまで作っているので、台所を使いたいのほうれん草とベーコンの炒め物を作りたいという気持ちが強いからだと考えられる。後は「：」のところにほうれん草とベーコンの炒め物を作る理由を入れていこう。習ってきたことを早く試したいのである。

4 このとき私が考えていることは、――線②から三行後で「娘はきつと…」という形で書かれていた。ここから私のねらいにあたる一文をさがしていこう。

5 私は昼寝をしていたところを娘に起こされたのであった。また――線③の後に「次に私を起こしたのも」とあったことから、「……」の後でまた眠っていたことがわかる。

6 文章の前半では、料理が思うようにいかない娘が四苦八苦する様子が書かれていた。ガス台に火をつけるところに「余裕がなくなってきたのか、うなずきもせず」と書かれており、そこでも娘からの反応がなくなっている。

7 声が小さくなっているのは弱気になっていることの表れである。ウの「祖母」は旅行に出ていて家にいないはずである。

8 Cは母親に任せればよくなって安心したところなのでエがはいる。Bは次の文で「私は、見ていられなくなつて」とあることから娘の様子がおかしくなっていると考えられるのでアがはいる。ここまでの娘のぎこちない様子とこれが「初めての、お菓子作りじゃない料理」であることから、Aはイではなくウがあてはまると考えられる。

9 料理が失敗に終わりがっかりしているのである。これと対照的なのはおいしい料理を作ろうとはりきっている料理前の様子である。

10 まず私の母親である祖母の様子が書かれているのは文章の終わり三段落なのでここに注目する。孫に当たる私の娘の、「初めての、お菓子作りじゃない料理」に対して「何の感慨もなくうなず」いていることから、祖母は家族の手料理にほとんど興味がないことがわかる。おそらく私の初めての料理の時も同じように無関心であったと考えられる。